南部町『次世代につなぐ果樹産地リレープラン』の支援

西部農業改良普及所

１．取組の背景

南部町では、農家の高齢化が進み、後継者も少ないため、栽培面積の減少が続いている。産地を維持し、生産振興を図るためには、果樹園を次世代につなぐ体制の整備が重要課題とされた。

平成 24 年 5 月より、課題解決のため、普及所は、県がんばる地域プラン事業を利用しながら南部町を中心にしたプロジェクトチーム（以下、ＰＴ）に参画し、廃園防止を行うプラン策定を開始した。

同年 11 月には、南部町『次世代につなぐ果樹産地リレープラン』が採択された。

普及所はプラン策定時よりＰＴに参画し、事業化を支援、活動の一翼を担った。

２．活動内容

（１）ＰＴによるプラン策定支援

南部町が主となるＰＴにメンバーとして参画した。

平成 24 年 7 月、町はアンケート調査を全果実部員に対して行った。項目は、廃園予定と貸し出しの可否の意向等であった。

普及所は、調査項目の検討と提案を町に行い、アンケート調査結果で得られたリレー候補園の地図落としを果実部とともに行った。また、ＪＡから検討に必要な果実部員の年齢情報の提供を受けて、年齢構成データをまとめた。

作成した地図、年齢構成データ及び他県リレー継承事例を検討会でＰＴメンバー（町、果実部、ＪＡ、県生産振興課）に提示し、現状分析と今後の取り組みについて情報共有を図った。

（２）南部町「梨柿チャレンジ講座」の支援

町が、栽培初心者を対象とした実地研修を主催した（表 1）。

ナシ２名、カキ５名が受講生として参加し、熱心に取り組んだ。

普及所は、果樹栽培の基本用語と時期ごとの作業について講義した。

実施月	回	参加人数	実践内容
5月	1	4	ナシ、カキ　果樹経営について
4月	2	1	ナシ　摘果作業
5月	3	5	カキ　摘らい作業
6月	4	4	カキ　摘果作業
7月	5	2	ナシ　夏枝管理
9月	6	2	ナシ　収穫
11月	7	5	カキ　収穫
1月	8	2	ナシ　剪定
1月	9	5	カキ　剪定
延べ	**9**	**30**	

表１　チャレンジ講座の実施実績（平成 25 年度）

（３）担い手候補への支援

チャレンジ講座受講生の中から担い手の掘り起こしを実施し、適性が高いと認められる１名が農大研修（平成 25 年 10 月～26 年１月）へ移行した。農大研修終了後は、第７期アグリスタート研修生（平成 26 年２月～）として、果実部役員のもとで研修している。

担い手候補に対してより重点的に摘果基準や収穫適期の実地指導を行った。

出荷目合わせ会では、品種ごとや果色の違いよる食味及び熟度の差について指導した。

収穫前全園調査では、果実部員とともに果実切断調査を行うことにより、課題と解決策の理解を図った。

また、平成 25 年 8～12 月の選果期間中は、ともに選果台に立ち、選果基準、病害虫被害果及び障害果の見方を助言した。

写真１　：収穫適期を実地指導
左：研修生　右：果実部役員
（平成 25 年９月）

３．具体的な成果

（１）リレー候補となるカキ園５戸 174a が確認された。

（２）アンケート調査で確認されたリレー候補園は維持されることとなり、別に、カキ園の継承支援及び新植、改植支援がリレープラン事業により実施された。

- 維持　　５戸　174a
- 継承　　２戸　 44a
- 新植、改植　４戸　100a

（３）チャレンジ講座受講生から１名がアグリスタート研修生となり、研修を開始した。重点的に指導した結果、果実部内での評価が高まった。

４．農家等からの評価・コメント（あいみ果実部 役員）

果樹産地の継続について、気にかけてもらって、ありがたい。

南部町の地域資源を守るという視点を持って、活動を展開できるように、今後も関係機関の支援をお願いしたい。

５．現状・今後の展開等

担い手候補の就農支援及び次に続く人の発掘が必要である。

アグリスタート研修生の本格就農によって､廃園を防止した事例作りを行う。

（執筆者：武村　健史）